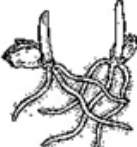
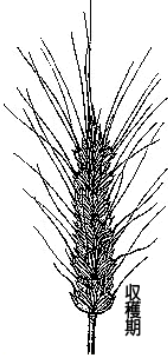




東北地域における 麦をめぐる事情

令和8年8月
東北農政局生産部生産振興課

1 小麦の生育ステージと主要作業（北東北・ゆきちからの例）

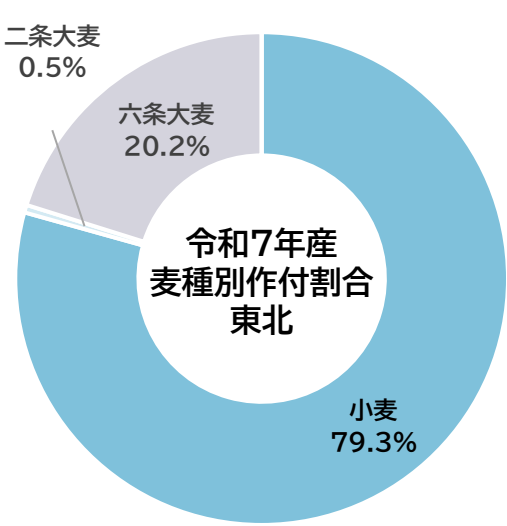
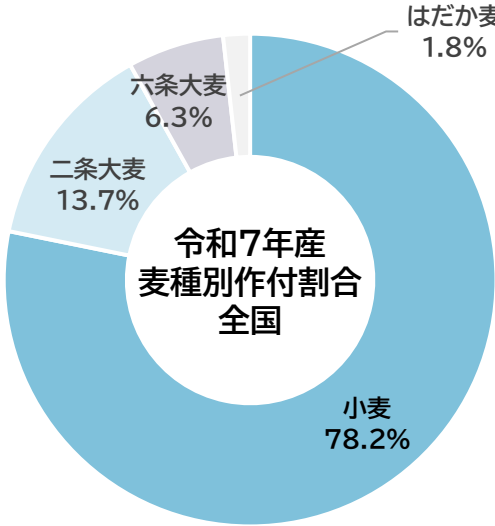
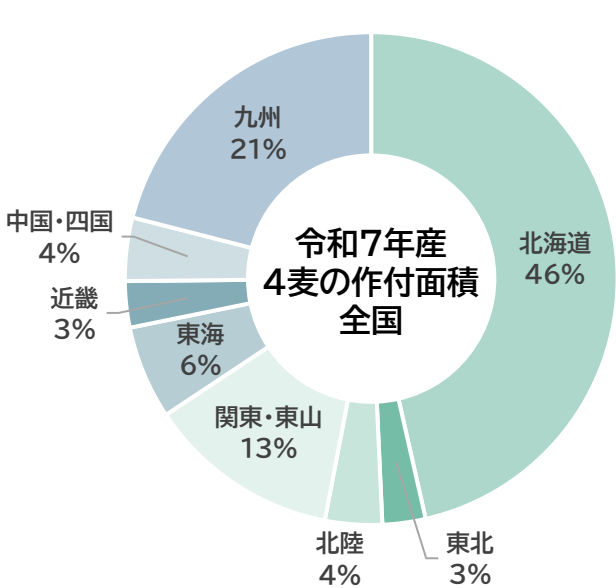
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月									
小麦の生育ステージ	 発芽期   分けつ期  幼穂形成期のコムギの幼穂  出穂期   開花期  収穫期																			
	播種期		出芽期 (5葉～6葉まで生育)		越冬期			幼穂形成期・減数分裂期		出穂期・開花期		登熟期	収穫期							
	<table><tr><th colspan="4">登熟期</th></tr><tr><td>乳熟期</td><td>糊熟期</td><td>黄熟期</td><td>完熟期</td></tr></table>													登熟期				乳熟期	糊熟期	黄熟期
登熟期																				
乳熟期	糊熟期	黄熟期	完熟期																	
主要作業	種子消毒 施肥・播種 除草剤散布 排水溝設置 雪腐病防除 踏圧  融雪水排水 融雪期追肥 踏圧 病害防除 出穂期追肥 収穫 																			

注：主要作業については、農研機構「麦栽培マニュアル」ゆきちからから引用。追肥の回数等の作業体系は地域によって異なる場合がある。

2-1 全国及び東北の作付面積(令和7年産)

- 全国の令和7年産4麦の作付面積は、小麦229.6千ha(作付割合:78.2%)、二条大麦40.3千ha(13.7%)、六条大麦18.6千ha(6.3%)、はだか麦5.2千ha(1.8%)であった。
- 東北地域の令和7年産4麦の作付面積は8.2千haで全国に占める割合は3%程度である。東北における主な麦種の令和7年産作付面積は、小麦6,530ha(79.3%)、六条大麦1,660ha(20.2%)であった。

	4麦計 (ha)	小麦 (ha)	二条大麦 (ha)	六条大麦 (ha)	はだか麦 (ha)
全国	293,660	229,600	40,300	18,600	5,160
東北 (全国に占める割合)	8,231 (3%)	6,530 (3%)	41 (0.1%)	1,660 (9%)	0 (0%)

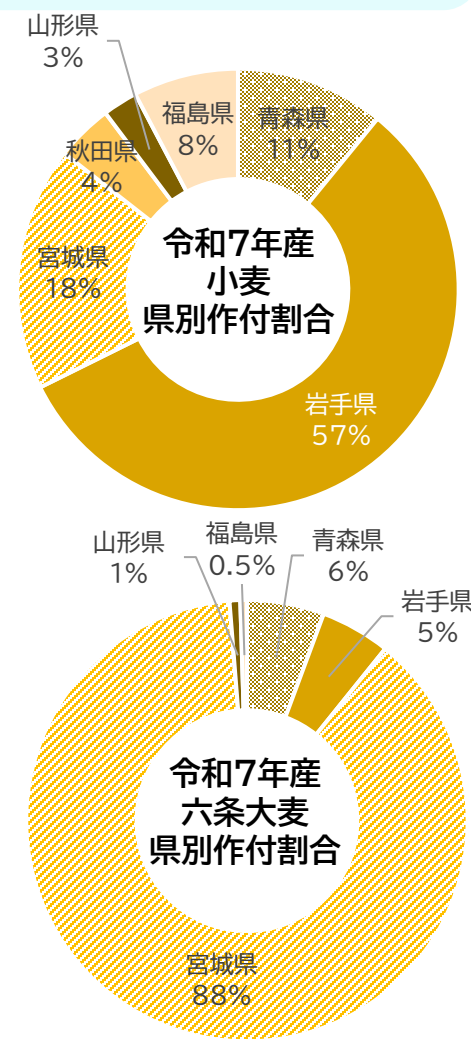


2-2 東北各県の麦種別作付面積及び収穫量

- 東北地域の麦の作付けは、小麦と六条大麦が大半を占め、作付けが多いのは岩手県(3,800ha)、宮城県(2,645ha)である。
- 小麦の作付面積は、岩手県が約6割、宮城県が約2割、青森県が約1割を占め、六条大麦は宮城県が約9割を占める。

東北各県の麦作付面積及び収穫量(令和7年産)

	4麦計		小麦		六条大麦	
	作付面積 (ha)	収穫量 (t)	作付面積 (ha)	収穫量 (t)	作付面積 (ha)	収穫量 (t)
青森県	807	2,204	713	1,870	94	334
岩手県	3,800	9,411	3,710	9,200	85	199
宮城県	2,645	10,278	1,170	5,220	1,460	4,990
秋田県	272	911	272	911	-	-
山形県	181	390	167	362	13	27
福島県	531	1,329	503	1,270	8	16
東北	8,236	24,523	6,530	18,800	1,660	5,570

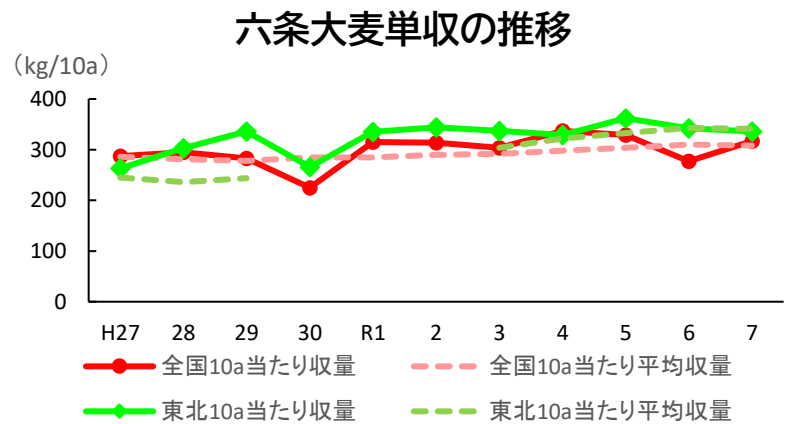
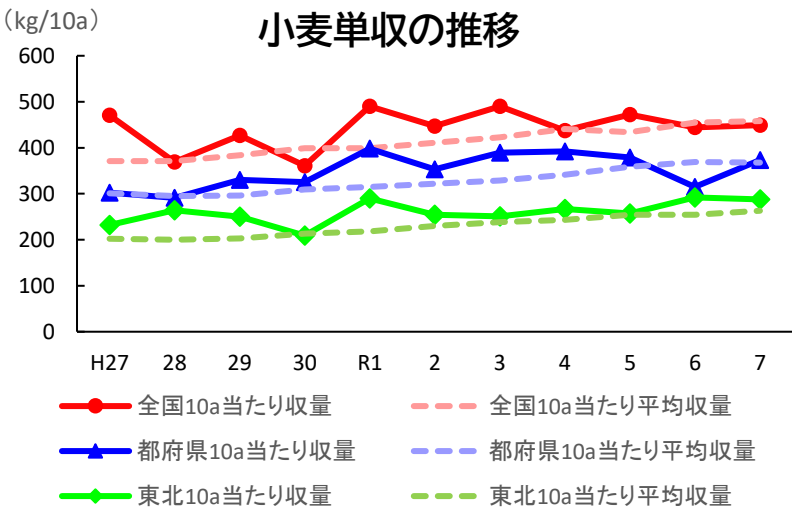
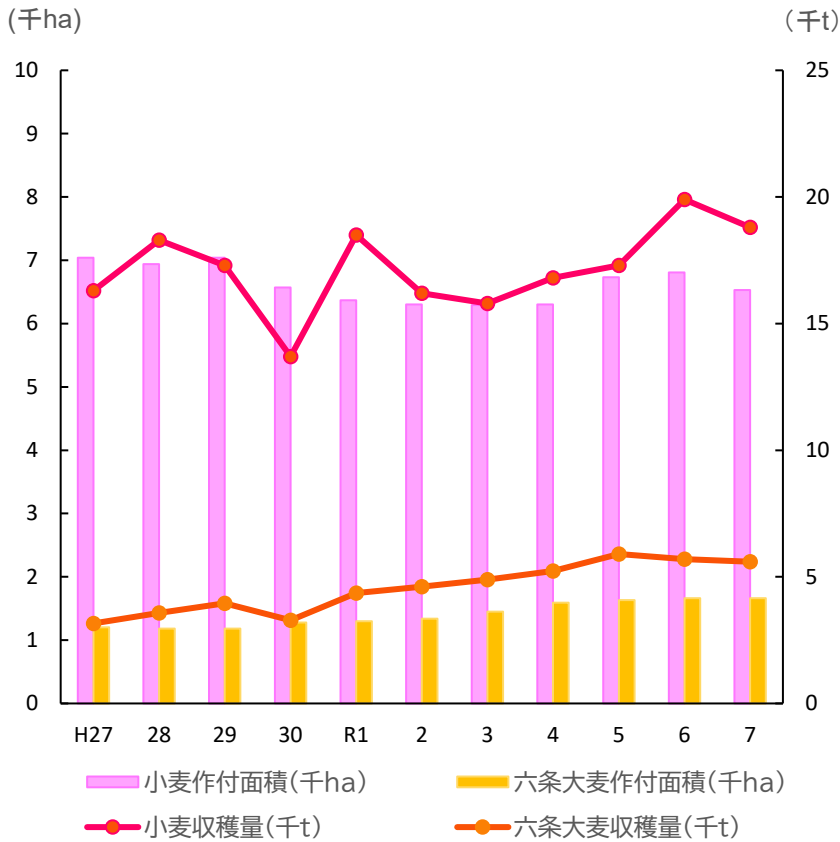


資料：作付面積は東北農政局生産振興課調べ、収穫量は農林水産省「作物統計」
注1：表中の「-」は事実のないもの
注2：東北地域での作付けの大半を占める小麦及び六条大麦を掲載

2-3 東北麦(小麦・六条大麦)の作付面積、収穫量、単収の推移

- 東北麦の作付面積は、小麦はこれまで概ね横ばい、六条大麦はこれまで増加傾向で推移している。収穫量は小麦で年次ごとの変動があるものの微増しており、また、六条大麦で増加傾向である。
- 東北の小麦の単収は、全国平均と比較して低く、都府県平均と比較しても低い状況で推移している。
- 東北の六条大麦の単収は、平成28年以降、全国平均を上回った状態で推移している。

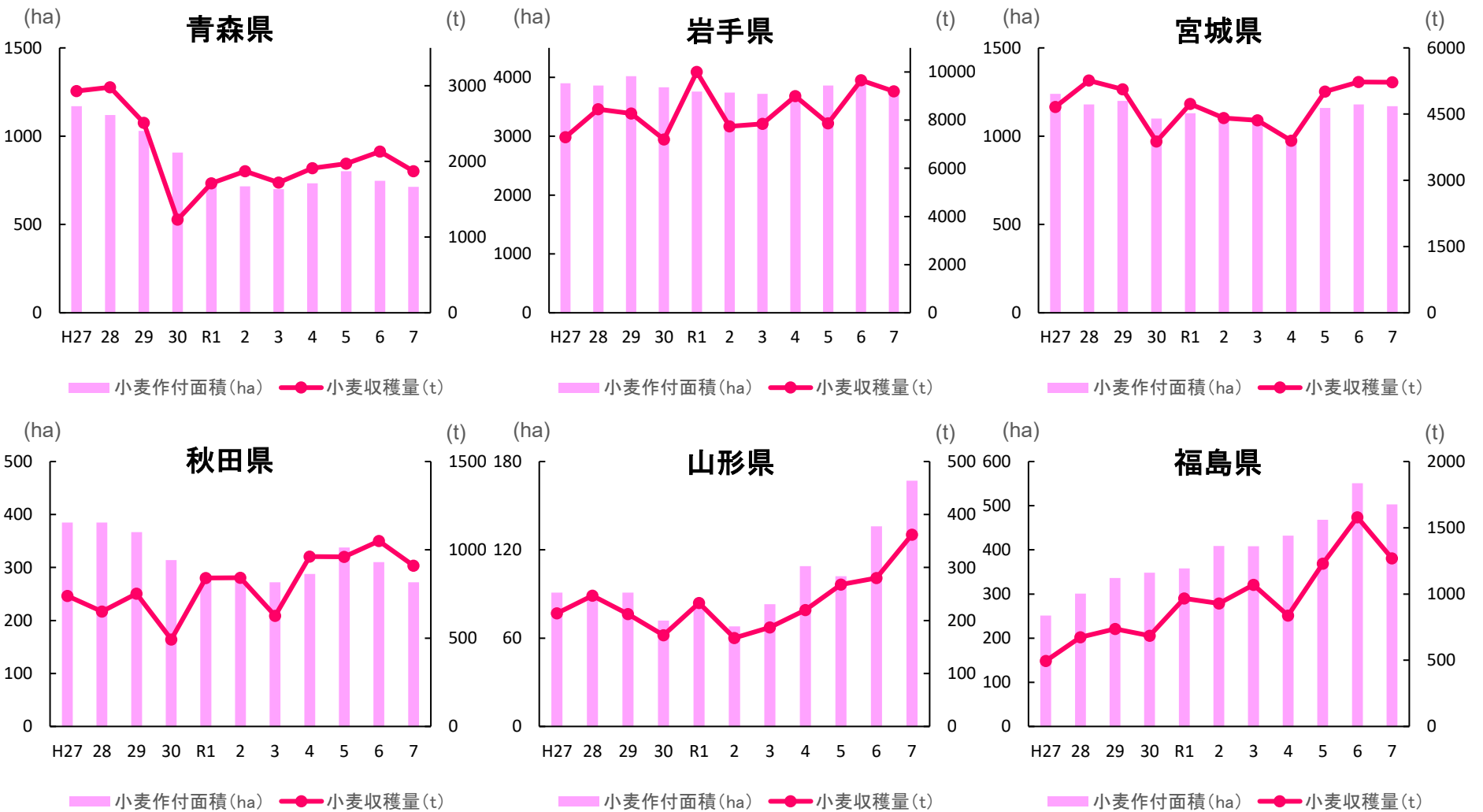
東北地域の小麦・六条大麦の作付面積及び収穫量の推移



資料：農林水産省「作物統計」
注1：「平均収量」は直近7箇年のうち最高及び最低を除いた5箇年の平均値
注2：H30からR2の東北の六条大麦の10a当たり平均収量は事実不詳又は調査を欠くもので非公表

2-4 東北各県の小麦の作付面積及び収穫量

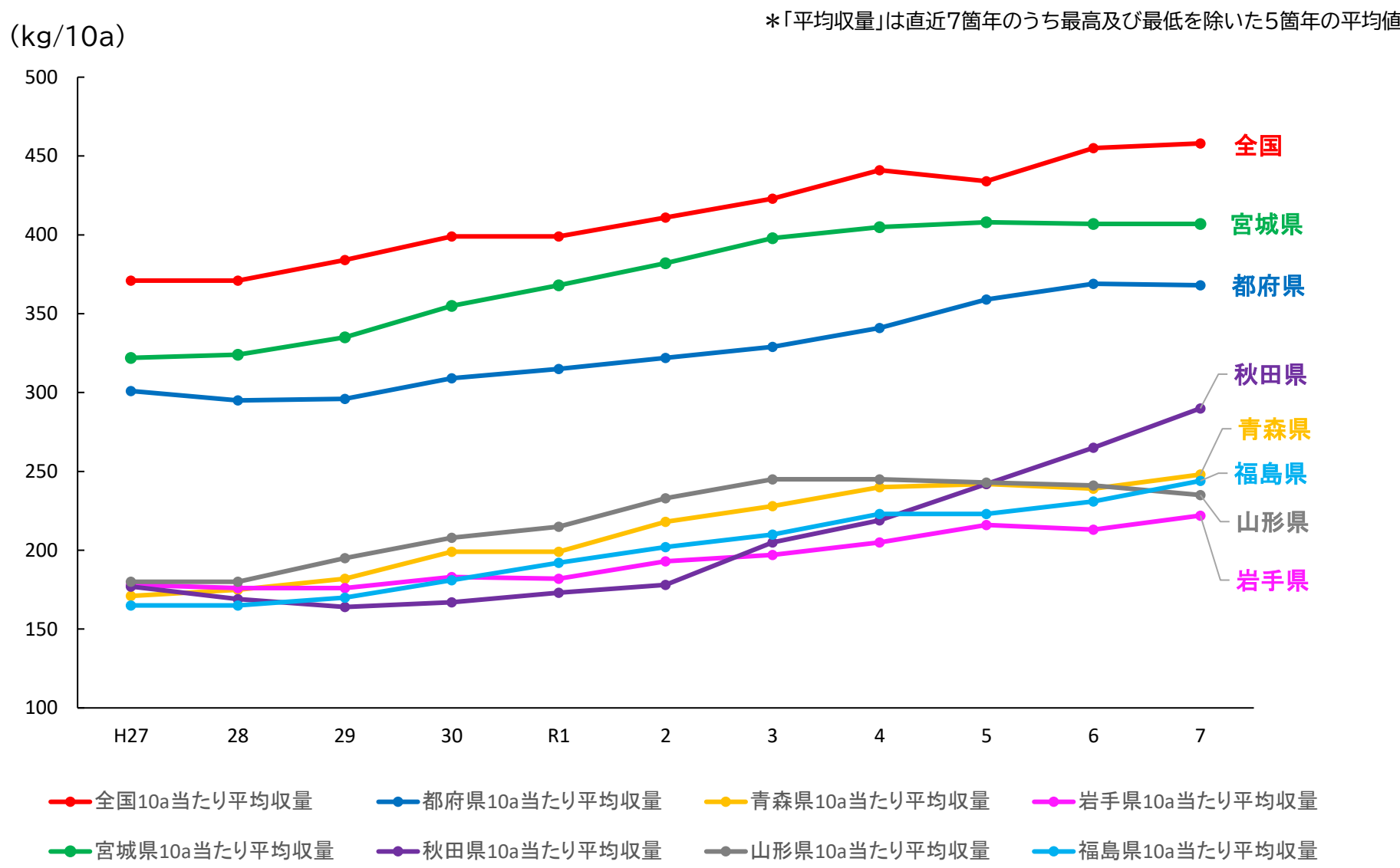
○ 東北各県の小麦の作付面積は、岩手県及び宮城県が概ね横ばいで推移。青森県、秋田県及び山形県では令和元年まで減少傾向であったが、それ以降は青森県及び秋田県では概ね横ばい、山形県は増加傾向で推移。福島県では平成27年以降増加傾向で推移している。



資料：農林水産省「作物統計」

2-5 東北各県の小麦の10a当たり平均収量の推移

- 小麦の10a当たり平均収量については、宮城県で都府県平均より高い傾向で推移している。
- その他の県では都府県平均を下回った状態で推移しているものの、近年、秋田県で平均収量の伸びが著しい。

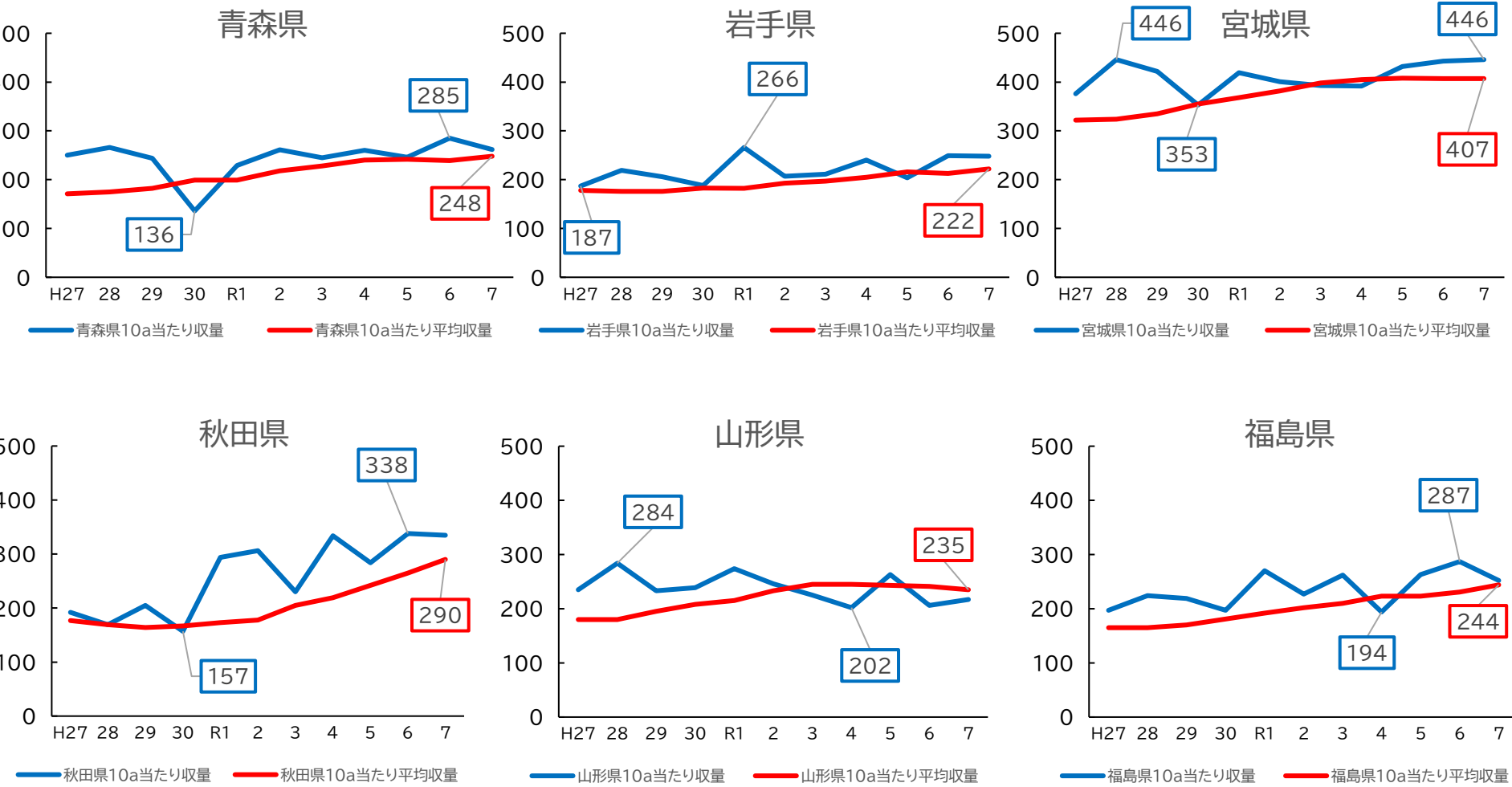


資料：農林水産省「作物統計」

2-6 東北各県の小麦の10a当たり平均収量と10a当たり収量の推移

- 小麦の10a当たり平均収量は、宮城県は300～400kg前後と高い傾向で推移しており、秋田県及び福島県は増加傾向で推移している。
- 10a当たり収量は各県・年次ごとの変動が大きい。

＊「平均収量」は直近7箇年のうち最高及び最低を除いた5箇年の平均値



資料：農林水産省「作物統計」
注：囲み数字はR7年産10a当たり平均収量（赤）及び各県の10a当たり収量の最高・最低値（青）

2-7 小麦の単収ランキングー全国の上位と東北各県ー

- 全国的にみると、北海道と愛知県の単収が高い状況にある。
- 東北地域においては近年、宮城県の単収が安定して高く、次いで秋田県という状況が続いている。他4県については単収の順位変動もあるが、時に全国の中でも順位が低い年もある。

R7年産		
順位	都道府県	単収 (kg/10a)
1	愛知	579
2	北海道	504
3	宮城	446
16	秋田	335
31	青森	262
32	福島	252
34	岩手	248
38	山形	217
全国		449
都府県		373
東北		288

R6年産		
順位	都道府県	単収 (kg/10a)
1	北海道	541
2	愛知	473
3	宮城	443
9	秋田	338
19	福島	287
21	青森	285
29	岩手	249
35	山形	206
全国		444
都府県		315
東北		292

R5年産		
順位	都道府県	単収 (kg/10a)
1	愛知	575
2	北海道	542
3	愛媛	464
4	宮城	432
28	秋田	284
31	福島	263
32	山形	263
34	青森	246
38	岩手	204
全国		472
都府県		379
東北		257

資料：農林水産省「作物統計」

3 東北地域の麦の水田での作付割合と排水対策の実施状況

- 東北地域における麦の栽培は、水田における転作作物としての作付けが大部分である（麦作付面積の約9割）。
- 麦は湿害に弱いことから、特に水田での作付けでは排水対策が重要であり、明渠の整備率は高い県が多いものの、心土破碎や弾丸暗渠等の実施率は高くなく、県間でのばらつきもみられる。今後の生産性向上のためには、各ほ場の条件に適した排水対策を行うことが重要である。

4麦作付面積の水田での作付割合（令和7年度）

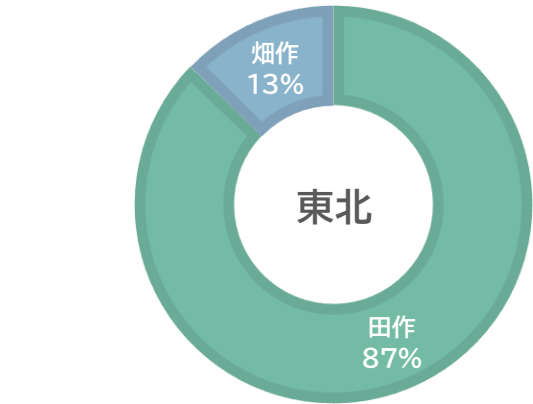
	4麦 作付面積 (ha)	うち 田作面積 (ha)	田作割合
全国	293,660	184,450	63%
都府県	158,400	149,930	95%
東北	8,236	7,181	87%
青森県	807	479	59%
岩手県	3,800	3,344	88%
宮城県	2,645	2,595	98%
秋田県	272	259	95%
山形県	181	120	66%
福島県	531	384	72%

湿害による影響



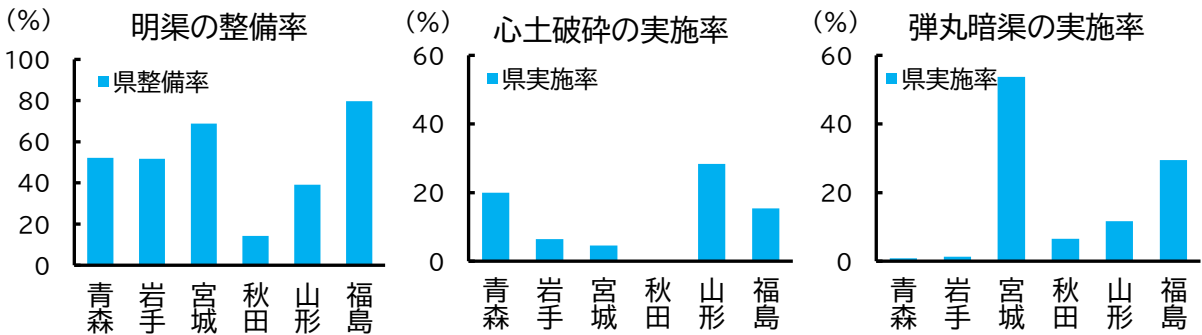
排水対策を実施したほ場(左)と未実施ほ場(右)

資料：診断に基づく小麦・大麦の栽培改善技術導入支援マニュアル（農研機構）



資料：東北農政局生産振興課調べ

水田で作付けされた麦の排水対策の実施状況（令和7年度）



資料：東北農政局生産振興課調べ

注：整備率・実施率は、4麦作付面積のうち水田での作付面積における当該対策の割合

4 東北各県の麦作における作付体系

○ 水田で作付けされた麦の作付体系は、青森県、岩手県及び福島県においては1年1作体系が半数以上を占める。宮城県及び秋田県においては稲・麦・大豆による2年3作体系の導入割合が高く、山形県においてはそばと組み合わせた1年2作体系の導入割合が高い。

